

## デジタルメディア

情報過多の時代に生まれた子供達にとって、デジタルメディアを通して得られる情報をどのように精査し、どのように利用するか判断する力が必要だと考えます。そのため、まめの木にはPCやタブレットのような、子供たちが必要だと思えば活用できるデジタル機器があります。PCを使ってゲームをしたり、インターネットで興味のあることについて調べたり、動画を観たりすることは日常的で、中には、グラフィックデザインやイラストレーションに興味を持ち、ペンタブを使って絵を描くことや、ロボットやゲームを自分で作るためのプログラミングに興味を持ち、まめの木のサポートスタッフに教えてもらう子もいます。



## 体育館

まめの木には体育館がありません。ですが、車で10分ほどのところにある体育館を有償ではありますが、使用することができます。子供たちは、1週間の天気予報を見ながら、月に何度か雨の日を選んで体育館を借りて、バスケットボールやバドミントンのような運動をしたり、ただ走り回ることを楽しんでいます。体育館を予約するための電話も子供たちにしてもらっています。

## 言語

まめの木を運営している西村源はアメリカ人の父と日本人の母の間に生まれたハーフであり、英語と日本語のバイリンガルです。丹波篠山市内で、小中高生を対象とした英語教室を15年以上経営してきました。

妻のアンナロディコはアメリカ出身で、中米でスペイン語を学んだ後、日本に移住し、4人の子供を育てています。それ以外のスタッフの中にも数名英語、フランス語、スペイン語、韓国語と日本語を使い、指導することができる方がいるので、子供たちの興味に合わせて、他言語や文化に触れてもらうことが出来ます。

## 買い物

子供たちが自分たちで管理するお金を、みんなで使い方を相談しながら使っています。工作や料理の材料を買う時や、遠足にかかる費用などについて話し合います。日常的な買い物には市内のコンビニエンスストアやスーパー、百均ショップなどを利用します。500円以内のものであればミーティングにかけることなく購入することができ、それ以上の金額であれば、ミーティングで他の子供たち全員の承認を得る必要があります。過去には4000円のウクレレを購入した子もいました。

まめの木の畑と向こうの景色

